

# 後輩たちへのエール！ その20

2020年5月12日

## 関高のみなさんへのエール

◇今回は、杉山瑞奈さん（南山大学外国語学部アジア学科）のエールです！

関高校の皆さん、こんにちは。2017年度卒業生の杉山瑞奈です。新型コロナウイルス収束の目途が立たず、不安な気持ちを抱えながら過ごされている方も多いのではないのでしょうか。この度、後輩の皆さんにエールをお届けする機会を頂きましたので、私の高校時代と大学での経験についてお伝えしたいと思います。構えず、気楽に読んでくださいね。

### SGH ベトナム研修

現在、私は南山大学 外国語学部 アジア学科に所属し、インドネシア語を学んでおります。というと、必ずと言ってよいほど突っ込まれます。(笑) なぜ、私がインドネシアに興味を持ったのか。それは高校2年生の時、SGH(super global high school)の一環でベトナムへ行ったことがきっかけです(右写真)。この時、私は一瞬で東南アジアの虜になってしまいました。物質的に豊かではなくとも、東南アジアには、人と人との温かく、そして深い絆があります。心がホッとするような温かい空気に包まれています。ベトナムでの経験から、私は”本当の幸せ”とは何かを考えさせられ、これから先も東南アジアと関わりながら生きていきたいと思いました。よって、大学で東南アジアを広く研究する東南アジア専攻し、インドネシア語を学ぶに今に至ります。



インドネシア語を学ぶにあたって、切っても切れないものが“イスラム教”です。なぜなら、インドネシア国民の9割はイスラム教徒だからです。ちなみに、皆さんは“イスラム教”と聞くと、どのようなイメージを持たれますか。恥ずかしながら、私はイスラム教について学ぶまで、あまり良いイメージを持っていませんでした。世界史の時間に、イスラム教徒は一日5回礼拝をしなくてははいけないことや、豚肉やアルコールを飲食してはいけない

ということをなんとなく習いましたが、それらをしっかりと実感したのも、イスラム教徒の友人のおかげです。

イスラム教徒の友人と遊んでいる際、お祈りの時間になったら、駅構内であろうと所構わずお祈りをします。日本はお祈りをする場所が少なく大変だ、と彼らはよく言っています。何より大変なのは、レストラン選びです。イスラム教徒は豚肉を食べることができないのはもちろん、豚肉が置かれたであろう調理場で調理された食材すら食べることはできません。せっかく日本へ旅行に来ても、彼らが食べられるものは限られていますし、メニュー表なんて読めないインドネシア人であればなおさら不安な気持ちでいっぱいになります。私がこのようにインドネシアを中心に、東南アジアを研究するに至ったのも SGH がきっかけです。色々なことに好奇心を持って、チャレンジしてくださいね。

## 大学受験

高校時代を振り返っても、大学受験のことはつい最近の出来事のように鮮明に覚えています。私は吹奏楽部に所属し 5 月まで部活を続けていましたので、受験勉強をスタートしたのは、それからです。そして、私はあまり勉強が得意ではありませんので、皆さんに何か良いアドバイスをできる立場ではありません。ごめんなさい。(笑)

しかし、私が受験勉強をするにあたって、大事にしていた 2 つのことをお伝えしますね。まず、一つ目に基本は高校の授業と教科書です。私は塾へ行っていなかったこともあり、授業や教科書に全神経を注いでいました。授業の予習・復習はしっかりとこなし、教科書は繰り返し読み直す。これは徹底していました。そして、2 つ目は睡眠時間の確保です。受験生時代に、日付を超えて勉強したことはありませんでした。部屋に籠りっぱなしで、息詰まるような生活を送られている受験生や在校生の皆さん、散歩などリフレッシュしながら、がんばってくださいね。

## さいごに

最後に、皆さんにお伝えしたいことは、高校時代の経験はこの先ずっと生き続けるということです。大学 4 年生になり就職活動や卒業論文執筆に取り組むにあたって、関高校で過ごした時間が、今の私の糧になっていることを常々感じます。当時は、部活、勉強、部活、勉強の繰り返しで、息が詰まるような生活をしていました。投げ出したいと思ったことは、一度や二度ではありません。(笑)

しかし、今となっては目標達成までの計画を立て、実行できるのも関高校で鍛えた文武両道の成果です。また、どんな状況であっても粘り強く最後までやり切ることができるのも、受験勉強で手に入れた力です。関高校で過ごした時間の中で、一瞬たりとも無駄な時間などありません。すべてが皆さんの血や肉となります。できることは限られていますが、このような状況をチャンスに変える他ありません。

私も卒業論文執筆のためインドネシアへ行く予定でしたが、キャンセルとなってしまいました。しかし、またこれから先インドネシアへ行くことが出来た際に、良い研究が行えるよう、今は研究の基礎固めの時間へと充てています。一歩でも二歩でも、前進できるような

日々を送るしかない日々感じています。私も頑張りますので、関高校の皆さんも一緒に前へ進んでいきましょうね。季節柄、お体ご自愛下さいね。応援しています。



イスラム教徒の高校生



インドネシア ポロブドゥール遺跡